水泳部、男女サッカー部、男女バスケットボール部、陸上部が全国舞台などで実績を残している。今春から活動を本格スタートさせたのは、硬式野球部の他に女子バレーボール部とダンス部

情報たっぷり　スポニチ県版

新潟フレッシュ伝

情報をお寄せください　メールアドレス

新潟医療福祉大野球部 最速神宮の県だ

気合の1期生31人始動

今秋関甲新L3部参戦へ

新潟明訓高前監督の佐藤利也氏（54）を初代指揮官に迎えた新潟医療福祉大の硬式野球部が7日、活動をスタートさせた。悪天候のため体育館での始動となったが、昨夏の甲子園を沸かせた竹石智秀投手（新潟明訓高出）ら1期生31人はランニングやストレッチなどで汗を流した。今後は両翼101メートル、中堅120メートルの新しい野球部専用グラウンド（新潟市北区）で練習を重ね、今秋から参戦予定の関甲新リーグ3部へ臨む。

明訓前監督・佐藤氏が初代指揮官

大学球界のステージに立った佐藤監督の表情には、新たな闘志が宿っていた。「ちょっと残念だが、（雨降って）地固まる。お互いに知り合うことも大事だから、広い所（グラウンド）よりも狭い（体育館）所でやるのもいい」と第一声。「緊張というよりワクワクしている。ゼロからのスタート。しっかりと鍛えていきたい」と話し、ランニングする選手たちに目を細めた。

新潟医療福祉大の強化指定クラブとなった硬式野球部には竹石ら推薦入試組16人に加え、一般入試組からも13人が入部。初年度から大所帯になった。当面は個々の特長をつかみ、チームとしてのカラーをつくり上げるために練習。ゴールデンウイークには参戦予定の関甲新リーグや大学野球の聖地・神宮球場へ足を運んでレベルを目に焼き付ける。佐藤監督は「5月中旬くらいから練習試合を組みながら夏までにチームを完成させ、9月からのリーグに備えたい」とプランを明かした。

明訓エース竹石ら強豪校出身者も入部

早速、ランニングで汗を流す選手たちのモチベーションも高い。竹石は「このメンバーで野球ができる楽しみがある。自分たちで伝統をつくり、最短で全国に行くのが目標」と話した。名門・横浜商（神奈川）出身の高度裕太部投手は「大学で結果を残し、県外出身の地元や高校に知らせたい」、専大松戸（千葉）出身の堀口晃平捕手も「身が引き締まる思い。甲子園での新潟明訓の活躍を見ていた。その監督（佐藤監督）の下で技術を高めたいと思った」と意気込みを口にした。

3部を抜け、2部を制し、入れ替え戦をクリアして1部に昇格するのが目標達成の〝絶対条件〟。遅のりは簡単ではないが「神宮（全国舞台）を目指して一日でも早く」と佐藤監督。新生・硬式野球部が照準をしっかりと定めて船出した。

（矢崎　弘一）

試合用ユニホームを披露した新潟医療福祉大野球部（前列中央は佐藤監督）

監督の母校イメージ　ユニホームお披露目

○…始動日に合わせて試合用ユニホームもお披露目された。上下ともアイボリー地に、胸には大学の略称である「NUHW」が刺しゅうされたシンプルなスタイル。佐藤監督は「大学野球を代表する法大や東北福祉大のような」と説明したが、母校の長岡高に似たイメージとなった。「オーソドックスだが、ここに中身をつけていきたい」。佐藤監督は徐々に〝大学色〟を強めていきたい考えを示した。